新・山と花のたより 265号

２０２２年９月１５日　　松尾　忠
メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp
ＨＰhttp://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com/

続・続・二上山に咲く花々　３５

ゲンノショウコ（現の証拠）
フウロソウ科フウロソウ属
写真は故澤木仁さん

有名な胃腸薬

日本ではドクダミ、センブリと共に３大民間薬の一つ。下痢どめの妙薬として用いられ、そして薬効が速やかに現れる事から和名はこの名に。同様の意からイシャシラズ、タチマチグサ、テキメンソウの別名もあるから面白いですね。

ゲンノショウコの源平合戦

二上山はもとより、あぜ道、土手などにもよく咲いている花ですが、全国的には静岡県の富士川あたりを境にして東日本には白花が、西日本には赤花が多いとされ、平安時代後期の“富士川の戦い”をもじって“ゲンノショウコの源平合戦”(源氏の旗は白、平家のは赤)と言われています。しかし、ピンクと白とが近接して咲いていることもあったように思います。

なじみ深い花も、減少が心配

日本人にはなじみの深いこの植物も、近年少なくなっているのが心配です。花期は７月頃から咲き始めて、１０月ごろでも花を見ることがあります。高さ 30～50ｃｍくらいの高さになり、1～1.5ｃｍの可愛い花をつける多年草。夏の季語で、この花を詠んだ句に「山の日が　げんのしょうこの花に倦む」(高浜年尾)、「踏みそうなところに　現の証拠かな」(雑賀遊)など。

続・続・二上山に咲く花々　３６

オニユリ（鬼百合）　ユリ科ユリ属
写真は故澤木仁さん

二上山の雄岳と雌岳間の鞍部「馬の背」の売店(元旦には開店)裏に、毎夏大輪の豪華な花を咲かせます。迫力のある花ゆえ、この名になったとのこと。

紫褐色の茎とオレンジの花

優に１ｍを超す茎は紫褐色で、細かい斑点があります。花期は7～８月。花は鮮やかなオレンジ色で暗紫色の斑点が目立ちます。下向きまたは横向きに咲きます。

黒いむかごで殖える

立派な花だが、種子をつくらず、葉の付け根に生じる黒く丸いむかご(珠芽、零余子---わき芽が養分を蓄えて肥大化したもの)で殖えます。このむかごは「むかごご飯」として食用になり、また

根の鱗茎は「ゆり根」として昔から食べられています。

夏、元気をもらえる花

生い茂る草むらから高く突き出て、赤く大きな花を咲かせる姿は夏そのもの。当然、夏の季語。

「安土城址なる鬼百合のまつさかり」（河合照子）

「鬼百合のこれみよがしの蕊の反り」（鷹羽狩行）

全国の山野に自生

九州から北海道まで、草原山野、さらには人里にも咲いて、古代より日本人に親しまれてきた植物ですが、古くに大陸から渡ってきたとの説もあるようです。

むかごが見えています→

続・続・二上山に咲く花々　３７

コオニユリ（小鬼百合）

ユリ科ユリ属　写真は故澤木仁さん

オニユリによく似ており、花期もほぼ重なりますが、こちらの方がやや小ぶりです。

コオニユリはむかごがなく、茎が緑色

違いはむかごがないこと。むかごをつくるユリは国内ではオニユリだけ。それと長い茎がコオニユリは緑なのです。

コオニユリは二上山ではオニユリの咲く馬の背に咲くほか、山の各所で自生していますし、人里にも多く自生し、また植えられています。

続・続・二上山に咲く花々　３８

ママコナ（飯子菜）　　**ハマウツボ科ママコナ属**

写真は故澤木仁さん

二上山の馬の背から雄岳に向かう階段のそばで、初夏から咲き始め、９月ごろまで可愛らしい花をみせてくれます。山の各所で自生しています。

高さは 30～50ｃｍ、花の大きさは２cm 足らずで、花の喉にあたる所に白い盛り上がりが出来、それが米粒に見えることからの命名。

半寄生植物。他県では絶滅危惧種とされている所もあり、大切にしたい植物です。